

第1章 研究プロジェクトの活動経過

第1章 研究プロジェクトの活動経過

第1節 当プロジェクト研究の第一段階

当プロジェクトは「高度熟練技能の維持継承」のために、OJT 中心で行われてきた我が国の人材育成の今日の問題点を克服する方策を明らかにすることを目的に、1999年に発足した。翌2000年度にかけて、「高度熟練技能」を仕事の現場に即して把握するとともにその形成過程の条件を把握することを目的として、当プロジェクト委員の所属する企業を中心に調査活動を行った。調査は事柄を具体的に検討しうよう、技能の領域をフライス系機械加工に絞った。この領域は各種産業を支える「高度熟練技能」の維持継承が問題視される際には、依然として重要な課題領域のひとつである。

調査検討の結果、企業の現場で「高度熟練技能」と言われるものは、加工技能を中心としながらも、技術者とのやりとり、加工条件の判断、段取り、品質・工程の管理、後輩への指導、作業改善等、幅広い職務をカバーするものであり、感覚的制御能力にとどまらず、幅広い知識・理解に及ぶ総合的な「高度」な能力であることがわかった。こうした高度な熟練技能者が育ってきた基本的プロセスは、初期の技能者養成校での訓練を経た後、さまざまな種類の現場作業の経験をたどるいわゆる OJT によるものであった。そして、それを今日の状況と比較してみると、企業内養成校の廃止・変容や、生産現場の技術的・組織的変遷によって、今日も同様の技能形成条件が維持されているとは言い難いことも明らかとなった。

こうした現状の問題点を克服するためには、一面で OJT のより目的意識的な整備がされなければならないことはもちろんであるが、もう一面では、より効果的・効率的な熟練技能者育成を実現するために、OJT を補完する Off - JT が追求されねばならないことが結論づけられた。

以上のような調査活動と検討結果を、2000年度末に『高度熟練技能と OJT を支援する Off - JT の可能性～OJT による能力開発に関する研究会中間報告書～』（職業能力開発総合大学校能力開発研究センター）にとりまとめた。この段階で Off - JT のコースの可能性として次の4つのタイプが見いだされた。

- 第一は現場に配属される前に、企業内訓練校等で行われてきた通常の訓練
「基本・入門型の Off - JT」・・・タイプ1とする
- 第二は満点を目指す特別な訓練
「技能五輪型の Off - JT」・・・タイプ2とする
- 第三は汎用機を教材として、NC化による空洞化部分を訓練する
「空洞技能補強型の Off - JT」・・・タイプ3とする
- 第四は時間のかかった従来型 OJT の改善の中から必要となる

「OJTを支援する現場型のOff-JT」

・・・タイプ4とする

第2節 本年度の活動

2001年度、当プロジェクトは『中間報告』の成果を踏まえて研究活動の第二段階へ入った。本年度の仕事は、高度熟練技能者の育成に資するためにどのようなOff-JTの訓練コースを開発するか、具体的な方針を確定することである。以下、この『第二次中間報告』に至るプロジェクトの活動経過を整理して報告する。

第1回委員会（平成13年6月27日）

前年度にまとめた中間報告書について反省点等を討議し、今年度の目標・計画を検討した。このなかで、「中堅熟練工として期待されながらも、さらに高度なレベルへと成長する条件を得られないでいる多くの技能者に、その伸び悩みを克服するきっかけとなるような訓練シリーズを提供する」というOff-JTの開発方針が決まった。中間報告にまとめたOff-JTの4つのタイプを踏まえて、対象となる技能者のレベルを中堅技能者と設定し、必要と思われるコース種類を改めて整理したコースアイデアが出された。動機付けコース、技能の洗い出しコース、感覚技能コース、段取りコース、満点コース、NC高度活用コースなどである。

第2回委員会（9月25日）

各開発コース案について目的、コースのねらい等を論議し、コースシリーズ全体の構造を中心に検討した。さらに各コースの熟練技能要素との対応づけの検討方法について議論し、検討様式を確認した。

NC高度活用コースについては、NC機教育と汎用機教育の関連、位置づけについて検討した。またここで付帯作業関連コースの可能性について追加検討されることとなった。

第3回委員会（12月11日）

前回の委員会を受け、開発コースについて各委員より素案を持ち寄り、各コースについてさらに内容を詰めた。その中でコース体系の概要（ステップアップのレベル設定）、及び各コースのカリキュラム概要、時間数設定等が検討された。次年度にまず手がけるコースとして、満点コース、感覚技能コース、段取りコースが候補にあげられ、満点追求型コースを中心にそれらのコースの具体的なカリキュラム案の作成が提案された。

第4回委員会（平成14年1月28日）

開発コースについて各コース案を持ち寄り、訓練目標と技術的内容およびカリキュラム

について検討した。この回初めて委員メンバーの他に、各委員の企業よりフライス加工系の指導員、高度熟練技能者の出席をお願いし、直接討議に参加していただいた。次年度、「満点追求型」コースを実施することに決定した。

あわせて今年度の第2次中間報告骨子が報告され、内容が討議された。

なお、平成12年度の委員会では、その都度委員メンバーの所属企業の事業所見学を行うとともに、高度熟練技能者との意見交換会を設けたが（平成12年度『中間報告書』、資料参照）、今年度は、各委員会後にそれぞれの開催地域の高度な機械加工技能者を有する企業を訪問し、熟練技能の現場見学と人材育成についてのヒアリング、意見交換を行った（巻末資料参照）。

